

現代幼児の人物画描画発達と気になる子の描画 グッドイナフ人物画検査を用いた検討

郷間 英世・木下 佐枝美*・川越 奈津子**・
中市 悠***・木村 秀生****・郷間 安美子*****

A Study on Drawing Development of Children
with and without Disabilities Using Goodenough-Drawing-Test

Hideyo GOMA, Saemi KINOSHITA*, Natsuko KAWAGOSHI**,
Haruka NAKAICHI***, Hideo KIMURA**** and Amiko GOMA*****

Accepted June 28, 2010

抄録: 最近臨床の場でよく見かける発達障害児や「気になる子」の描画は未熟な印象を受けることが多い。そこで幼児の人物画発達を調査し、障害児や「気になる子」の描画特徴について検討した。対象は保育園に在籍する3～6歳の554人の幼児であり、グッドイナフ人物画知能検査を行った。描かれた画は描画発達年齢を求め人物画知能(DAM-IQ)を算出した。対象児のうち広汎性発達障害や知的障害など診断名のついている子どもは17人(3.1%)で描画発達は遅れており平均DAM-IQは70.1で低値であった。診断のない子どものDAM-IQは平均98.3で加齢とともに低下した。診断はないが行動や社会性に関して「気になる子」どもは計63人(11.4%)おり、DAM-IQは平均92.2とやや低く、成熟した描写と未熟な描写をともに持つアンバランスさを多くの画に認めた。今後その原因や発達の詳細との関連なども検討の必要があると考えられた。

索引語: 幼児, 描画発達, グッドイナフ人物画知能検査, 発達障害児, 気になる子

Abstract : We have studied on children's development and have pointed out that present-day children have delay and unbalance in their development. The delay is prominent in drawing. In this study, we investigated the human figure drawing of children with and without disabilities using Goodenough-Drawing-Test (DAM). The subjects were 281 boys and 273 girls at nursery schools. We evaluated the developmental drawing age by scoring 50 items and calculated DAM-IQ. Then we compared the data between children with disabilities and children without disabilities. The number of children with disabilities is 17. The diagnoses of them are pervasive developmental disabilities, intellectual disabilities and so on. The drawing

* 奈良東特別支援学校

** 長浜市発達支援センター

*** 湖南市ことばの教室

**** 大阪河崎リハビリテーション大学

***** 京都国際社会福祉センター

developmental of them is retarded and the average DAM-IQ is 70.1. As for children without disabilities, the average DAM-IQ is 98.3. The number of children “Kininaruko” who have social and behavior problems but have no diagnosis of developmental disabilities is 63(11.4%). The average DAM-IQ of them is 92.7, and in the drawing figures, there are both mature and immature descriptions, which we felt unbalance. There are delay or unbalance on the drawing figures of children with developmental disabilities or Kininaruko. More precise study regarding possible causes and other developmental aspects is needed.

Key Words : children, development of drawing, Goodenough-Drawing-Test, developmental disabilities, Kininaruko

1. はじめに

我々はこれまで、最近の子どもの幼児期の発達に変化してきており、特に図形模倣などの描画発達で遅れが著しく、三角形模写では約 8ヶ月、ひし形模写では 12ヶ月遅れてきていること¹⁾、遅れてきている項目の男女差を見ると、男児で遅れが顕著であること²⁾、などを報告してきた。また川越³⁾は、5,6 歳保育園児を対象にグッドイナフ人物画テストを行い、描画発達年齢は以前の子どものに比べ約 6 カ月遅れてきていることを明らかにしている。

一方、近年の幼稚園や保育園では、子どもの発達や行動が変化していることが危惧されている。友だちとうまく遊べない、話がきけない、日常の生活習慣が身につきにくいなど、未熟さをもつ「気になる」子どもが増え⁴⁾、保育者一人で保育可能な子どもの数が減少したと訴えている。我々も、2007 年に京都市の約 2000 人の保育園児を対象に調査し⁵⁾、発達障害児や知的障害児などの 4.0%の診断のついている障害児に比べ、診断を受けていないが「気になる子」は 13.4%と多数在籍していることを報告した。またその「気になる子」の特徴は「落ち着きがない」や「衝動的で他児とトラブルが多い」などの行動面や「集団に入りにくい」や「こだわりが強くパニックを起こす」などの対人面の問題が多く、発達障害児の行動特徴と類似していた。

さて、障害を有する児の描画発達に関してみると、知的障害児や発達障害児は、描画発達が遅れる^{6, 7)}との指摘があるものの、診断のついていない「気になる子」の描画発達についての報告はみられない。そこで今回は、幼児の人物画発達の加齢に伴う変化を検討するとともに、発達障害児の人物画や診断はないが社会性や行動面に何らかの問題を有する「気になる子」の人物画発達についても検討を加えたので報告する。

2. 方 法

対象は、近畿地方の保育園に在籍する 3 歳児 136 人（男 71, 女 65）、4 歳児 126 人（男 54, 女 72）、5 歳児 159 人（男 89, 女 70）、6 歳児 103 人（男 53, 女 50）、計 554 人の幼児である。2007 年に、グッドイナフ人物画知能検査（DAM）による描画を保育園においてクラス別に行った。

グッドイナフ人物画検査は、1926 年 Goodenough⁸⁾ によって公表された検査であり、その後世界各地で使用されるようになった。大規模な改定は 1963 年に Harris⁹⁾ によってなされ、その修正版が小林¹⁰⁾

により日本で標準化され「グッドイナフ人物画知能検査」としてよく用いられている。検査の方法は「人をひとり描いてください。頭の先から足の先まで全部ですよ」と教示する。評価はそれぞれの人物画について、表1に示した「頭」、「口」、「脚」など50項目の描出の有無を基準に従い評価し、描出されている項目数によって描画発達年齢を求め、生活（暦）年齢との比より人物画知能（DAM-IQ）を算出する。

また、同対象児に障害の診断および、診断はついていないが「気になる」点の有無も調べ、それぞれの人物画の特徴を検討した。統計学的分析はt検定を用いた。倫理的配慮として、事前に保護者に本研究の目的、内容を文章で説明し承諾を得た。

表 1. グッドイナフ人物画知能検査の 50 項目

1 頭、2 眼、3 胴、4 脚、5 口、6 腕、7 毛髪 A（髪があればよい）、
8 胴の長さ、9 鼻、10 腕と胴のつけ方 A（胴から出ている）、
11 まゆまたはまつ毛、12 衣服、13 毛髪 B（頭皮が出ていない）、14 首、
15 腕と脚のつけ方 B（腕は肩から脚は胴の下から）、16 指、17 首の輪郭、
18 脚の割合、19 衣服 2 以上、20 両目の瞳、21 眼の形（横幅が縦より大）、
22 耳、23 踵、24 脚の割合、25 頭の輪郭、26 衣服の全部、27 腕の割合、
28 指の細部、29 頭の割合（胴の半分以下で 1/10 以上）、30 目の向き、
31 胴の輪郭、32 指の数、33 耳の位置と割合、34 腕および脚の輪郭、35 肩、
36 肩あるいは腕脇の関節、37 顎と額、38 掌、39 衣服の部分四つ以上、
40 描線 A（重複や断線がない）、41 脚の関節、42 鼻と口の輪郭、
43 横向き A（頭、胴、足が横向き）、44 鼻腔、45 顔貌、46 顎の突出、
47 衣服の種類完成、48 拇指の分化、49 横向き B（すべて横向き）
50 描線 B（デッサン風）

3. 結 果

1) 描画可能な人物画の数

描画対象児の描画例を図 1 に示した。3 歳児では人物の描出にはならず錯画であるものもあったが、加齢とともに人物画はより詳細なものが多くなった。対象児全体で描画の分析が可能で DAM-IQ を求めることができたのは、516 人（93.1%）で、分析不能は男児 37 人（3 歳 31 人、4 歳 4 人、5 歳 1 人、6 歳 1 人）、女児 1 人（4 歳児）、計 38 人（6.9%）で男児に多かった（表 2）。

表 2. 対象数と描画分析ができなかった人数

年齢	3	4	5	6	計
男児数	71	54	89	53	281
うち描画の分析不能数	31	4	1	1	37
女児数	65	72	70	50	273
うち描画の分析不能数	0	1	0	0	1
合計人数	136	126	159	103	554
うち描画の分析不能数	31	5	1	1	38

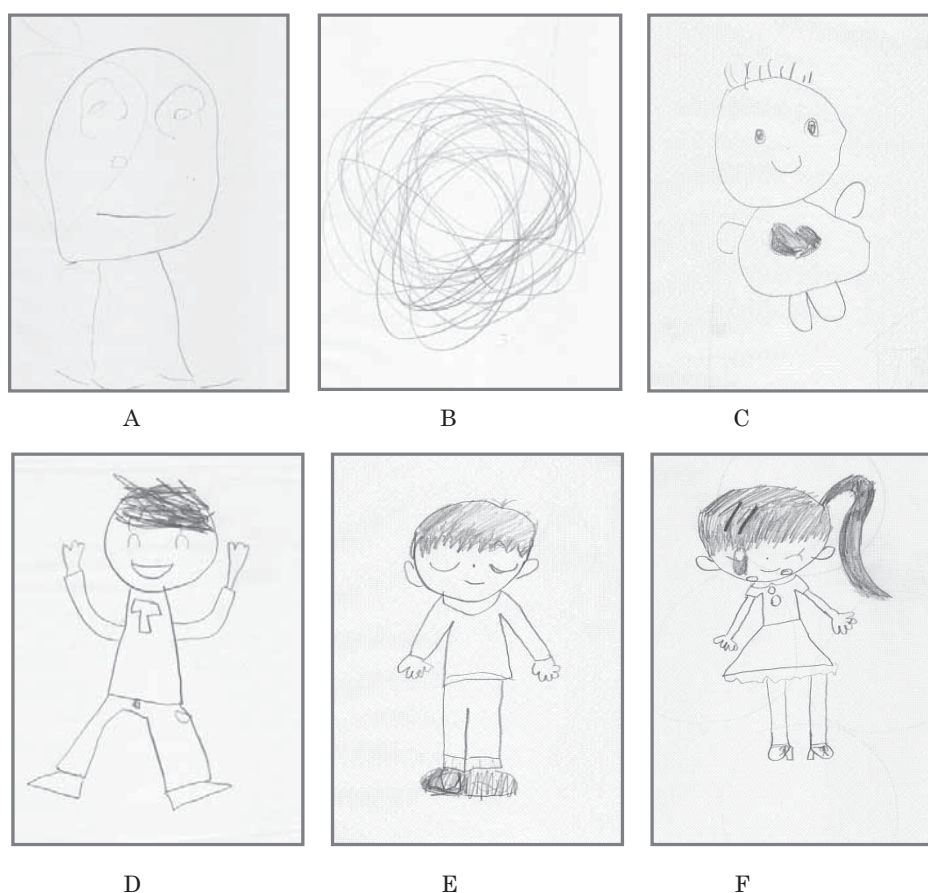


図 1. 3 歳から 6 歳幼児の人物画描画例

A : 3 歳児の描画, B : 3 歳児錯画 (分析不能画), C : 4 歳児の描画,
D : 5 歳児の描画, E・F : 6 歳児の描画

2) 障害の診断のある子どもの数とその描画

対象児のうち診断名のついている子どもは、男児 13 人、女児 4 人、計 17 人で、対象全体の 3.1% を占めた。診断名とその人数を表 3 に示した。診断のついている子どものうち、描画の分析ができなかったのは男児 5 人女児 1 人で計 6 人 (診断がついている子どもの 35.3%) であった (表 4)。人物画の評価が可能だった 11 人の DAM-IQ は 70.1 ± 8.5 (平均値 $\pm$ 標準偏差) で著明に低値であった。診断の付いている児の人物画の例を図 2 に示した。

表 3. 診断名と人数

(複数診断あり)	
広汎性発達障害自閉症	12
(うち高機能自閉症、アスペルガー症候群 7)	
知的障害	4
ADHD	2
言語発達遅滞	1
被虐待	1
計	17

表 4. 診断を有する子どもの人数と描画分析ができなかった子ども

					(人)
年 齢	3	4	5	6	合 計
男児数	4	3	2	4	13
うち描画の分析不能数	2	3	0	0	5
女児数	1	2	1	0	4
うち描画の分析不能数	0	1	0	0	1
合計人数	5	5	3	4	17

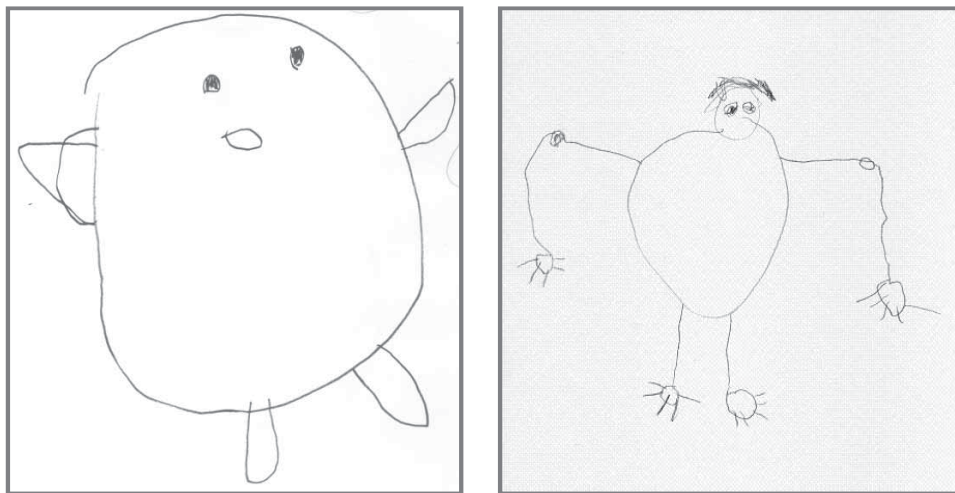


図 2. 診断のついている幼児の絵 左：5歳知的障害児 右：6歳高機能自閉症児

3) 障害の診断のない子どもの描画

診断のある子を除いた対象児 537 人のうち描画の評価の可能だったのは 504 人 (93.9%) であった。この年齢別, 男女別の平均 DAM-IQ を図 3 に示した。DAM-IQ は男児で 3 歳児の 102.8 ± 14.5 から 87.0 ± 11.9 へ, 女児 3 歳 107.8 ± 13.0 から 6 歳 95.3 ± 13.2 へと男女とも加齢に伴い低下し, 4 歳および 6 歳では男女差 ($P < 0.01$) も認めた。

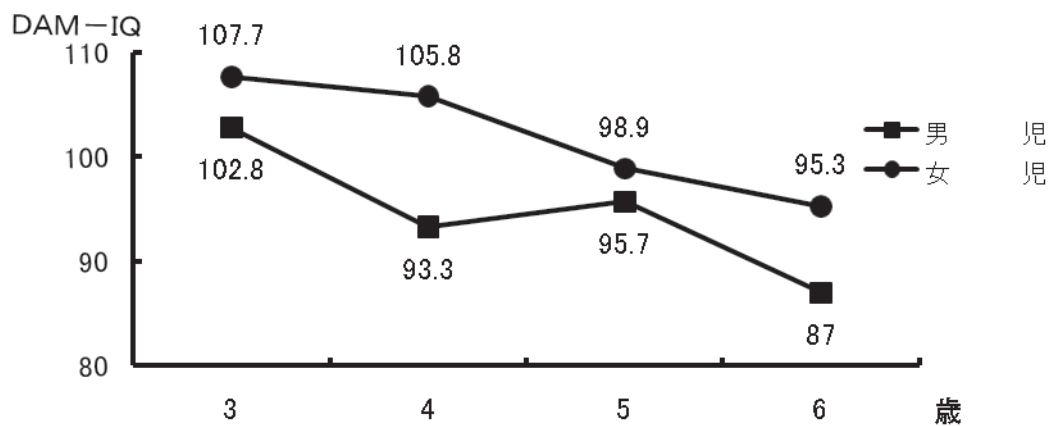


図 3. 年齢別男女別 DAM-IQ

4) 診断はついていないが「気になる子」の描画

3) で述べた障害の診断はない子どもの中に、行動や社会性の発達に何らかの問題点を有す「気になる子」が多数含まれている。その人数は男児 50 人（男児の 22.9%）、女児 13 人（女児の 5.1%）、計 63 人（全体の 11.4%）で、そのうち人物画の評価の可能だったものは 57 人（「気になる子」の 91.5%）人であった（表 5）。「気になる子」の描画例を図 4 に示した。左の絵は他の 4 歳児と比べて顔は描けているのに体や手足が描けていない。右は足の指の描写などがやや奇妙な印象を受けた。また、年齢別 DAM-IQ の結果を図 5 に示したが、いずれの年齢でもそうでない子より DAM-IQ は低値で 3 歳の 103.6 ± 11.3 から 6 歳の 86.9 ± 15.9 へと年齢とともに低下した。

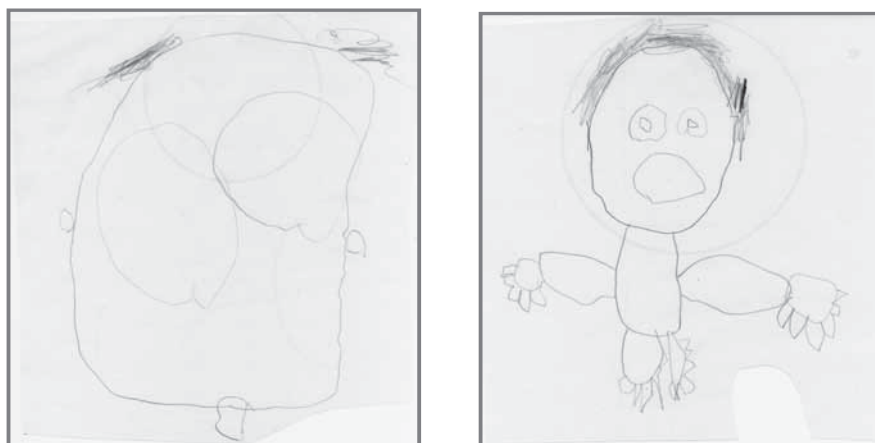


図 4. 気になる子の人物画描画

左は 4 歳男児、集団活動や聞く場面で課題のある児の画
右は 6 歳男児、コミュニケーションに課題のある児の画

表 5. 「気になる子」の年齢別人数と描画分析不能人数

年 齢	3	4	5	6	計
気になる子男児数	14	13	15	8	50
うち描画の分析不能数	5	1	0	0	6
気になる子女児数	2	4	3	4	13
うち描画の分析不能数	0	0	0	0	0
気になる子合計数	16	17	18	12	63
うち描画の分析不能数	5	1	0	0	6

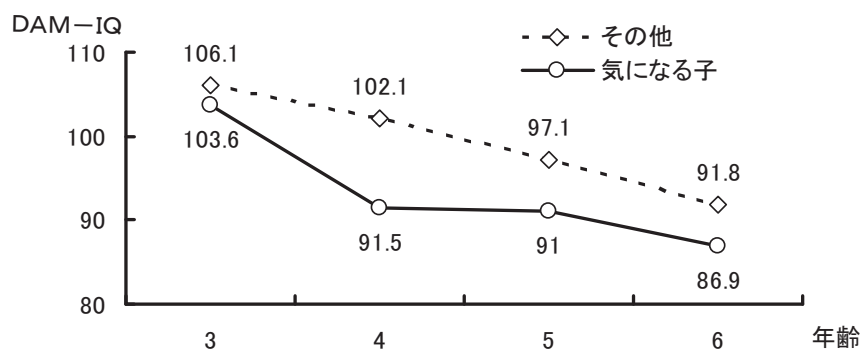


図 5. 「気になる子」の DAM-IQ

4. 考 察

1) 現代の幼児の人物画発達について

今回の幼児のグッドイナフ人物画検査による調査の結果、3、4歳では遅れが目立たなかったのに対し、5歳、6歳と加齢に伴い、DAM-IQの低下すなわち描画発達の遅れが目立った。この結果は、日本においてグッドイナフ検査の標準化がなされた1977年の子ども¹⁰⁾に比べて幼児期の人物画描画発達が遅れてきているというものである。このことは、我々が、新版K式発達検査において、図形模写の発達が幼児期後半から顕著に遅れてきているという結果¹⁾と呼応していると考えられる。すなわち、最近の子どもの描画発達は、図形の模写も人物画描画も以前の子どもと比べて幼児期後半から遅れが大きくなる。

グッドイナフ人物画検査は描画検査であるにもかかわらず全般的知能の測定できる検査として古くから用いられている⁹⁾。また、小林¹⁰⁾は、人物画により、知覚・認知能力、手の操作を中心とした運動能力、視覚・運動の協応能力などが評価できるという。では、現代の子どもはこれらの能力が落ちてきているのであろうか。人物画に影響を与えるものとして、教育、その国の文化、日常目にしている絵や視覚情報、男女差などが指摘⁹⁾されている。今後、生活習慣や養育環境などとの関連など、継続的な調査が必要と考えられる。また、これらの遅れが幼児期以後も加齢とともにどう変化するのかなど、詳細な検討も必要となろう。

2) 男女差について

今回の検討の結果見られた人物画知能検査の男女差についてはどうであろうか。3歳から6歳のいずれの年齢も男児が女児に比べてDAM-IQが低値であり、4歳、6歳では有意差を認めている。Harris⁹⁾は、5歳から15歳の2975人の子どもの描いた人物画で半年から1年分、女児のほうが男児よりで得点が高いことを示した。そして、これは教育や文化の影響であるとしている。最近でもDeaver¹¹⁾らは、7歳と9歳の466人の人物画描画の検討を行い、発達的な検討ではいずれの年齢も男女差を認めたと報告している。一方日本の小林らは、グッドイナフ人物画検査を行い女児で得点が高かったが、有意差を認めるほどではなかった¹²⁾としている。川越ら³⁾は、5歳児のグッドイナフ人物画テストの検討から、男女差を認めたとしている。これらの結果より近年のグッドイナフ検査による人物画描画発達は、わが国においても欧米と同様に男女差が明らかになってきたと思われる。

3) 障害児の人物画について

本検討では、知的障害や広汎性発達障害などの診断のある障害児の人物画描画発達は著しい遅滞を認めた。今給黎ら⁶⁾は、知的障害児の人物画描画発達の検討より、言語発達、認知発達などに相応した人物画描画発達が認められるとしている。すなわち知的発達の遅れのある知的障害児は、描画発達も遅滞する。また、発達障害児の人物画描画を検討した高遠⁷⁾らは、その特徴として、人物の描写が生活年齢より幼い、顔の細部のまゆげ、毛髪などの描写の脱落、一般的に着目しにくい鼻孔や足の指の数の項目の通過率が高い、などを指摘している。

今回の検討では、障害別の特徴や発達検査結果との関連などは検討できていないが、上記の報告と同様の結果であると考えられた。

4) 「気になる子」の人物画について

「気になる子」の DAM-IQ の平均は、そうでない子のより低値であった。また、「気になる子」の描画は成熟した面と未熟な面を併せ持ち、アンバランスな印象を受けることが多かった。「気になる子」は行動や社会性の面で発達障害と同様の特徴を持っている^{4,12)}といわれているが、生活上の困難が目立ちにくかったり、保護者の受容困難など様々な理由で診断にまで至らない例が多い⁵⁾。しかし「気になる子」は就学後に不適応状態をきたすこともまれではなく、診断のついている児に比べその数が非常に多いことを考えると、彼らに対する理解や適切な対応は必要である。今後も描画発達の面からの検討を進めることも意味の有ることと考えられる。

5) 今後の課題

今回の検討は保育園の多数の児を対象としたため、障害児や「気になる子」一人ひとりの資料が十分でなく、発達検査結果や養育環境との関連などを詳細に検討することができなかった。今後は成育歴や発達段階などの影響も含めた個々の事例の詳細な内容も検討することにより、発達障害児や「気になる子」の描画発達やその特徴を明らかにしていく必要があると思われた。

文 献

- 1) 郷間英世, 現代の子どもの発達的特徴とその加齢に伴う変化ー 1983 年および 2001 年の K 式発達検査の標準化データによる検討Ⅱー小児保健研究, Vol.65, No2, 282-289, 2006
- 2) 郷間英世, 大谷多加志, 大久保純一郎, 現代の子どもの描画発達の遅れについての検討, 奈良教育大学実践総合センター紀要, No.17, 67-73, 2008
- 3) 川越奈津子, 郷間英世, 池田友美, 木下紗枝美, 郷間安美子, 人物画に見られる現代の子どもの特徴ー5 歳保育園児のグッドイナフ人物画知能検査による検討ー, 小児保健研究, 投稿中
- 4) 池田友美, 郷間英世, 川崎友絵, 山崎千裕, 武藤葉子, 尾川瑞季, 永井利三郎, 牛尾禮子, 保育所における気になる子どもの特徴と保育上の問題点に関する調査研究, 小児保健研究, Vol.66, No6, 815-820, 2007
- 5) 郷間英世, 郷間安美子, 川越奈津子, 保育園に在籍している診断のついている障害児および診断はついていないが保育上困難を有する「気になる子ども」についての調査研究, 発達・療育研究(京都国際社会福祉センター紀要), Vol.23, 19-29, 2007
- 6) 今給黎禎子, 笠井新一郎, 藤原雅子, 山田弘幸, 倉内紀子, 知的障害児の言語発達と描画発達の関連, 九州保健福祉大学研究紀要 8, 167-172, 2007-03-25
- 7) 高達光子, 新田展子, 落合由香, 石川聡美, 谷川尚久, 根来あゆみ, 軽度発達障害児の人物画の特徴, 日本 LD 学会第 14 回大会論文集, 2005
- 8) Goodenough FL. *Measurement of Intelligence by Drawings*, Harcourt, Brace and World, Inc. New York, 1926
- 9) Harris DB. *Children's Drawings as Measures of Intellectual Maturity*, Harcourt, Brace and World, Inc. New York, 1963
- 10) 小林重雄, グッドイナフ人物画知能検査・ハンドブック, 京都: 三京房, 1977.
- 11) Deaver SP, Norfolk VA, *A normative Study of Children's Drawings: Preliminary Research Findings*, Art

Therapy. 26(1), 4-11, 2009

12) 本郷一夫, 保育の場における「気になる」子どもの理解と対応, ブレーン出版, 2006